

びやくしきびやっこう 第24号

## ジェンダーを問い直す

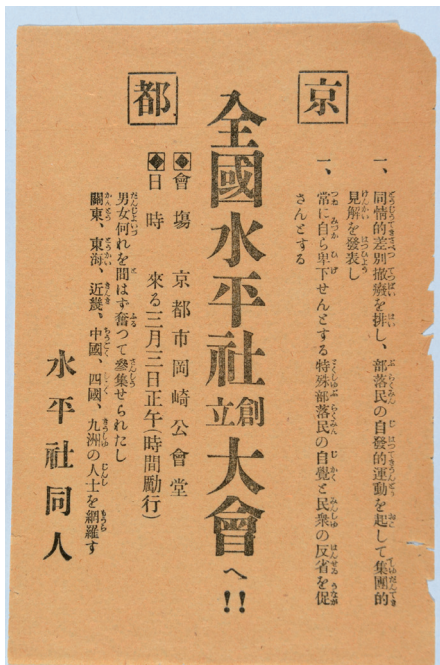


## ペンギン

みなさん、ペンギンのメスとオスって見分けられますか？ ペンギンは性別にかかわらず体系も色もほとんど違いがないそうです。

ペンギンの子育ては大変。たとえばコウテイペンギンのばあい、メスが卵を産むと、それを約60日間もの間、足の上に乘せて温め続けるのはオスの役目。ヒナが孵化すると、オスは口からミルクを出して与えます。その間、メスは遠くの海を必死に泳ぎまわり、子どもに与える食べ物をお腹の中にたくさん詰め込んで帰ってくるのだとか。過酷な自然の中で、ペンギンのカップルは力をあわせて育児をしているんですね。

写真撮影＝中山和弘さん



※本文は42・43頁

You Unlimited

Ryukoku University

みんなの  
キャンパストイレフォーラム

2021年12月7日 (火)  
17:20～19:20 (オンライン)

**詳細・お申込み**  
詳細な内容やお申し込みは龍谷大学宗教部のホームページをご覧ください。

龍谷大学 宗教部

主催：龍谷大学人権問題研究委員会／共催：龍谷大学ユスソーシャルビジネスリサーチセンター  
お問い合わせ：龍谷大学宗教部 Tel：075-645-7880 Mail：ryukyubu@ad.ryukoku.ac.jp

※本文は7頁以下に

人権学習誌『白色白光』びやくしきびやくこう 第24号 ジェンダーを問い直す

|                              |       |                               |    |
|------------------------------|-------|-------------------------------|----|
| 多様ないのちが輝く世界                  | ..... | 岩田真美                          | 2  |
| みんなのキャンパストイレフォーラム            | ..... | 高田晃志<br>新川貴大<br>長崎まなみ<br>松永敬子 | 7  |
| 《座談会》「育児は育自」自分が育つ            | ..... | 中根 真<br>柴田 卓                  | 19 |
| 性暴力を考える                      | ..... | 牧野雅子                          | 29 |
| ミス&ミスターコンテストについて語りませんか？      | ..... | 田村公江                          | 34 |
| 全国水平社宣言100周年                 | ..... | 妻木進吾                          | 42 |
| 人権に関する基本方針・性のあり方の多様性に関する基本指針 | ..... |                               | 44 |

# 多様ないのちが輝く世界

文学部准教授

ジェンダーと宗教研究センター長

岩田真美

## 「ジェンダー平等」実現のために

皆様ご命日法要によるこそお参り下さいました。本日は「多様ないのちが輝く世界」と題しましてお話をさせていただきます。

今、私は「龍谷大学ジェンダーと宗教研究センター」という研究センターの運営に関わっていますので、冒頭に少しだけそのお話をさせていただきます。このセンターは2020年4月に創設されたばかりのまだ新しい研究センターです。龍谷大学は浄土真宗の精神を建学の精神としています。ですから、ジェンダーと宗教研究センターで

は、建学の精神にもとづいて、仏教をはじめとする宗教による平等の理念を明らかにするとともに、そこで得られた知見によってジェンダー平等の実現に取り組んでいくことを大きな目標として掲げています。研究と実践という両方の面から取り組んでいるのですが、特に龍谷大学が全学をあげて「仏教SDGs」ということを推奨していますので、仏教SDGsの実現の一端を担うということを目的として、仏教をはじめとする宗教研究の知見からジェンダー平等の実現に取り組むということをミッションとしているのです。

SDGsについては皆さんも聞かれ

たことがあると思います。SDGsはSustainable Development Goalsの略称です。日本語では「持続可能な開発目標」というふうに訳されることが多いです。2015年の国連サミットで、国連に加盟するすべての国が満場一致で可決し採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」というものに記載された「2030年までに持続可能で、よりよい世界を目指すための国際目標」として17の項目で構成されています。これは地球を守る、そして人間の尊厳を守る、平和で持続可能な世界を作っていくということが目指されていて、「我々の世界を変革す



る」というタイトルがつけられています。

SDGsの17の項目において、私たちは大きな変革をしていくことが必要だと言われていますし、逆に言えば大きな変革なくして持続可能な世界や未来というものは、もはやないんだということが明記されています。ですから、私たち一人ひとりが、世界を持続するために今のあり方を変革しながら取り組んでいかなければならないというこ

となのです。そしてそのスローガンとなっているのが「地球上の誰一人取り残さない」ということです。特にジェンダーと宗教研究センターでは、このSDGsの目標5に掲げられています「ジェンダー平等を実現しよう」ということに重点的に取り組んでいます。もちろんジェンダーという問題が、目標5だけではなく、貧困の問題、教育の問題、働き方の問題、不平等の問題などSDGsの全ての目標に横断的に関わってくる根本的な課題の一つであることは認識しておかなければならないと思います。

世界経済フォーラムが公表している男女格差の大きさを示すジェンダーギャップ指数で、2021年の日本の順位は世界256カ国中120位というとても残念な結果となっています。特に日本の社会では「経済」や「政治」という分野において女性の進出が遅れていると指摘されています。そういう意味では日本は海外からはジェンダー

平等後進国という風にみなされている現状があります。ですからこれらの側面においても大きな変革が必要なのわけです。

こうした現状を踏まえ、ジェンダーと宗教研究センターでは、日本社会あるいは大学、宗教界、そういったところのジェンダー平等を実現するためには大きな変革が必要だと考えて活動を進めています。

### 「男らしさ」「女らしさ」の概念

ところでジェンダーという概念について、辞書的な説明では、生物学的な性差ということではなく「社会的・文化的に作られた性差」というふうに紹介されることが多いかと思います。それは社会が規定する「女らしさ」とか「男らしさ」というふうに言い表すこともできます。たとえば男性は外で仕事をするというイメージ。あるいは女性とは家庭のことをする。家事とか育児や介護というのは、あたかも女性の役



割であるかのように社会から見られている。これもジェンダーの問題です。あるいは、たとえばヒーローといえは、

ほとんどの場合「男性」という固定観念があったり、たくましいことや強いことが「男らしさ」であるかのように言われてしまったり、逆に女性は「素直でありなさい」、「優しくありなさい」、「協調性を持ちなさい」などというふうに関わりから言われてしまったりすることもあるだろうと思います。そういう「女らしさ」「男らしさ」のような、社会が規定する概念に対して何かモヤモヤを感じたり、そういう自分になれなくて息苦しさを感じたりすることは誰でもあるのではないかと思います。それがまさにジェンダーの問題ということなのです。

ですから、ジェンダーというのは社会とか文化の影響を受けて形成されるもののなので、時代とか国とか地域が違えばジェンダー意識は変わってくるわけです。今後変わっていく可能性を持

っているという意味では、ジェンダーには希望があるということができるのかもしれない。

### ありのままの自分こそ

ジェンダーということが時代によって変わっていくことを、高校生向けに話をする機会があり、若い学生や生徒たちにも分かりやすい例はないかと考えていたのですが、ジェンダー意識

の変化はアニメとか映画とかいろんな文学作品にも表れています。たとえばディズニー作品の女性像というものが大きく変化してきています。初期の頃の「白雪姫」や「シンデレラ」、「眠れる森の美女」など皆さんもよくご存知の名作、こういった古典的な作品では、女性のヒロインが不遇な環境や危機の中にあって、その危機に耐えていたら王子様が現れてそこから救い出してくれ、そしてその王子様と結ばれて幸せになるといふ、いわゆるお決まりのストーリーが展開されています。どの作

品も共通していると思うんですが、眠れる森の美女ならば、寝ている間に王子様が来てくれてそして自分を救ってくれるというような、どこか受け身な女性像というのが表現されているのです。それはやはりこの作品がつけられた当時の社会背景というものを表しているだろうと思います。

もう少し年代が新しくなり、1990年代になると「ポカホンタス」とか「ムーラン」といった作品が出てきます。これまでのように白人のお姫様ではなく、ムーランドと中国人、アジアの人が主役になっていますので、そういう意味では人種の多様性も意識されるようになってきます。また、王子様が来て自分を守ってくれるというのではなく自ら女性が主体的に周りの誰かを助けるために戦うという、女性リーダー像が描かれています。それは社会が描く女性、社会が求める女性像というものが時代とともに変化してきているということであると見ることもでき

ます。

近年の作品として注目すべき作品、特に私が注目したものとして、「アナと雪の女王」という作品があります。映画の劇中歌に「Let It Go」という歌があつて、日本語訳は英語よりも少しポジティブな良い訳がされていると感じているのですが、その歌詞の中にこういうフレーズがあります。

とまどい 傷つき

誰にも打ち明けずに 悩んでいた

それも もうやめよう

ありのままの姿見せるのよ

ありのままの自分になるの

この一節が一番盛り上がるシーンなのですが、主人公のエルサが歌うのですが、そのさびの部分がテレビのCMなどでも流れてきて、私はそれを聞いてグッと心が掴まれたような気がしたんです。そこではもはや女性であるとか男性であるという性差ではなく、あ

りのままの自分でいいんだ、私は私らしく生きるんだ、というメッセージが伝わってきたように思ったのです。それは多くの人達にも、おそらくきつと響いていて、曲のヒットと共に映画はヒットして「アナ雪ブーム」が巻き起こりました。けれどもそれは一方では、ありのままの自分で生きたい、自分は自分らしく生きたいと多くの人が願っているにもかかわらず、そういうふうにはできない社会とか現実というものがあるということの裏返しでもあるような気がしました。

### 青い花には青い光

親鸞聖人が大切にされていた『仏説阿弥陀經』という經典の中に、このような言葉があります。

池の中の蓮華は大きさ車輪のごとし

青色には青光

黄色には黄光

赤色には赤光

白色には白光ありて微妙香潔なり

これは阿弥陀様の浄土の世界が描写される中に出てくる一節で、仏様の浄土の世界、すなわち仏様の悟りの世界では色や形も異なる多様なものたちが仏様の光に照らされて、青色の花には青い光が、黄色い花には黄色い光が、赤色の花には赤い光が、白色の花には白い光や輝きがあつて、それぞれ自分らしく自分らしいカラーで輝いているという意味です。それに対して私たち自身や社会のありようというのはどうか、ということは今一度内省しなければいけないと思いますし、多様ないのちや価値観が尊重される「誰一人取り残さない社会」を私たちはつくっていかねければならないと思います。

先ほど紹介したSDGsの理念にも「誰一人取り残さない」という言葉が使われています。「誰一人取り残さない」というと能動的に聞こえるかもしれませんが、実は英語の原文では受動

態で書かれています。ですから「誰一人取り残されたい」と言った方が正確かもしれません。ここで忘れてはいけないのは、私自身もそこに入っている、私自身も取り残されるかもしれない一人である、ということです。私は今、元気で皆さんとこういう風にお話をし、社会とつながることができすけれども、私が病気になったり年老いたり、あるいは誰かに批判されたり、仲間外れにされたりした時に、「自分は取り残されている」と感じることもあると思います。それは私だけではなく誰しも同じことです。ですから、一人ひとりがこれを自分の課題として、主体的に取り組んでいく、そういうことが非常に大事ではないかと思えます。またそこにジェンダーの視点を取り入れるということが、社会や文化の構造を分析するのみならず、自分自身を内省する視点に繋がると考えています。例えば私は女性であることでジェンダーによる差別を受けることがあるかもしれないし、私もまた気がつかない間に誰かを差別してしまうことがあるかもしれない。ですからジェンダーの視点というのは自分自身のありさまというものを今一度見つめ直す、内省する視点でもあり、自分の痛みに気づくとともに他者の痛みに共感し、寄り添うことができる視点でもあると思います。それは龍谷大学がコンセプトとして掲げている「自省利他」というあり方にもつながるものではないかと思えます。仏教が説く多様ないのちが自分らしく輝き、共生する世界を築いていくこと、それは「仏教SDGs」を推奨する私たちが共に取り組んでいくべき大切な課題ではないかと考えています。

最後に親鸞聖人の浄土和讃からこの言葉を紹介したいと思います。

平等心をうるときを  
一子地となづけたり  
一子地は仏性なり  
安養にいたりてさとるべし

この一子地というのが、阿弥陀様がすべての衆生を平等に、あたかもわがひとり子のようにいつくしみあわれむ慈悲の心のことを指しています。すべての衆生一人ひとりが阿弥陀様から大悲をかけられた尊い存在であり、尊いのです。だからその阿弥陀様の救い取って捨てたまわぬ撰取不捨という慈悲、願いの中に共に生かされている私たちは御同朋・御同行としてこの課題に取り組む、誰一人取り残さない社会の実現に向けて、協力してサステイナブルな未来を皆さんと一緒につくりたいと思います。

本日はご命日法要に際してこのようにお話をするご縁を頂きまして誠にありがとうございます。

2021年7月16日（金）ご命日法要  
「多様ないのちが輝く世界」於 大宮学舎 本館講堂オンライン配信 〓  
<https://youtube.com/EibXHEEL7P0>



# みんなのキャンパス トイレフォーラム

登壇者

高田晃志

国際基督教大学管理部

日野晶子

株式会社リーXール  
プロジェクト営業部

新川貴大

本学卒業生

牧村美優

政策学部生

長崎まなみ

Ryusei GAP Clear

西田 彩

本学卒業生  
大阪経済大学客員教授

ファシリテーター

松永敬子

経営学部教授・キャリアセン  
ター長 ユヌス・ソーシャルビ  
ジネスリサーチセンター「社  
会課題解決に向けてアプロ  
ーチするための対策検討WG」  
メンバー

あらゆる人が利用するトイレの問題は人権の問題です。このフォーラムでは、ダイバーシティやSDGsの観点から、トイレの困りごとや悩みごとを共有し多様な事例を知ること、誰かが安心して利用することができるキャンパストイレ」について考えました。

松永 本日のテーマは「トイレ」です。誰もが安心して利用できるトイレとは、どんなトイレなのか？ とくに人権の問題やダイバーシティ、さらにSDGsの視点などからもご意見をいただければと思います。

私は10年以上前から、龍谷大学のトイレについて改善が必要だと訴えてきました。たとえば龍谷大学には重要文化財に指定されている建物もあるほど歴史のある大学ですから、全体的に和式トイレが多い状況でした。学生からも洋式トイレを増やしてほしいという要望が出ていましたし、主に教職員が多い深草キャンパスの紫英館という6

階の建物の3階と5階のフロアには女性トイレ自体が存在しないという状況でした。調査のために、さらにその建物の1階の男性トイレに入ってみたのですが、その広さに驚くと共に、女性トイレのかんりの狭さに気がきました。

2017年度～2018年度に学生会が実施したアンケート調査の結果、3キャンパス全体では和式トイレが圧倒的に多く、洋式トイレが少ないことが要因となり、女子学生を中心に「洋式トイレのある建物に移動することで授業に遅れる」などという自由記述も



龍谷大学の「だれでもトイレ」の表示

あるほどで、たいへん驚きました。他にも、「盗難防止も含め、トイレ内に荷物棚やフックを付けてほしい」、「外から男性トイレの様子が見えるので、何とかしてほしい」という要望があり、全学協議会という場で学生会から大学に要望書が提出され、予算を付けて順次、環境整備をしていくと大学側が回答し、洋式トイレ化が急速に進んでいます。そして、前述の紫英館についても、2022年中にトイレの大改修が完了する予定です。（衛生面に不安がある方のため、和式トイレも一部、残しています）さらに、龍谷大学では障害や性別に関係なく利用できる多機能（多目的）トイレを、「だれでもトイレ」と呼んでいます。そして、2021年9月には、ユヌスソーシャルビジネスリサーチセンターの社会課題解決チームが中心となって、トイレの個室内に生理用ナプキンを無料で配布するシステム「Oitr（オイテル）」を、3キャンパスに設置する取り組みを始めました。

このように、本学のトイレを取り巻く環境は年々良好な状態となつていきます。しかし、まだまだ課題もあります。

数日前、新幹線と在来線が乗り入れるJRの駅に「広いスペースのバリアフリートイレを必要としている方が困っています」という、国土交通省のポスターを見つけました。そこには「使う前にちょっと考えて」「あなたはバリアフリートイレでないためですか」と明記されていました。伝えたい内容は理解できます。しかし、このポスターを見て、使用したい方々が使用するときに躊躇してしまうのではないかとともに思いました。つまり伝えたいメッセージやサインにも配慮が必要で、非常に難しい問題であると思います。

「トイレは社会の縮図」です。みんなのキャンパスのみんなのトイレをみんなで見つめ直してみる！ 本日は、そんな時間になればと思います。どうぞよろしくお願い致します。

では最初に、政策学部で社会問題や

課題について考える学生グループ「Ryu-sei GAP Clear チーム」から牧村さんと長崎さんに発表していただきます。

## 龍谷大学のトイレの現状とは

牧村・長崎 私たちは龍谷大学でLGBTQなどの、多様な性の学生が生活しやすい環境を作りたいという想いで、活動しています。そこで、とくに身近で生活に欠かせないトイレに着目し、大学への提言書の作成、外部イベントの参加、SNSの運営、この3つを主な活動として取り組んできました。

電通ダイバーシティラボさんが実施した調査によると、LGBTを自認している人は8・9%を占めます。また、龍谷大学が実施したアンケートによると、学生と教職員でセクシャルマイノリティを自認している人が、全体の15・2%でした。この数字がそのまま当てはまるわけではありませんが、龍谷大学の構成員約2万人の中で、20

00人ちかくの人がLGBTQに該当する可能性があります。もちろん人数が少なければ対応する必要がないということではありません。

そこで、私たちが深草キャンパスでトイレ調査を行った結果、18棟中11棟に、「だれでもトイレ」と表示されたトイレが設置されていませんでした。



牧村さんと長崎さん

これらには男女別のトイレの中に、多機能トイレが設置されているものもありますが、心と体の性が一致しないトランスジェンダーの方は、トイレに行きづらいです。また、多機能トイレや「だれでもトイレ」の数が圧倒的に少ないことも問題です。さらに、「だれでもトイレ」のピクトグラム（単純化された視覚記号）の表示が車椅子が目立つデザインになっているので、「だれでもトイレ」と多機能トイレを区別しにくいことや、トイレの構造上、通路から男性用トイレが見えてしまう、などの問題が明らかになりました。

大学への提言として次の3つを挙げたいと思います。一つ目は男性用トイレや女性用トイレ、多機能トイレ、「だれでもトイレ」の多様なトイレを、どの建物にも設置していただきたいです。二つ目は男性用トイレの入口に暖簾をかけるなどして、外から見えないようにしていただきたいです。最後に、オールジェンダートイレを設置してい

ただきたいです。この3点です。

最後に、現在のトイレは、性別の移行期の方や、自分の見た目に不安を覚える方、性別が決まっていない方にとっては、行きづらい場所となっています。トイレに関する課題は、性に悩みを抱える学生の生きづらさに繋がっているため、トイレ整備が必要だと考えています。



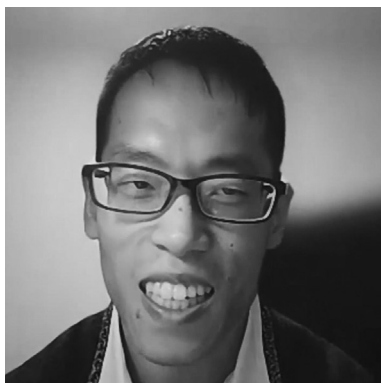
入澤学長に提言書を渡す学生チーム

松永 ありがとうございます。オールジェンダートイレについては、のちほど国際基督教大学の高田さんから、発表があると思います。続いて、在学中のボランティア・NPO活動センターや、障がい学生支援室のスタッフとして活動されてきた新川さんをお願いします。

### 車椅子ユーザーとトイレの問題

新川 私は、龍谷大学卒業生です。私は生まれつき障がいがあり、車椅子ユーザーです。そのためトイレに、使えるものと使えないもの、使いやすいものと使いにくいものがあります。そこで、私が思う使いやすいトイレについてそして、みんなが使いやすいトイレにするには、どうしたらいいか、という話します。

私が思う使いやすいトイレの特徴は①広いスペースが確保されていること。②扉が押しボタン式であること。③手すりがあること。④は簡単で重



新川さん

い扉を開閉させることができる。ただこの押しボタン式は、安全確認のため15分たつと、自動で開錠される場合があるので、注意を要します。③は便座の手すりが動かせること。車椅子を近づけて便座に座りやすくなります。また、この手すりが必要に応じて上下させて使えるという点がそれぞれポイントとなります。

なお、写真の多機能トイレにある流し台は、人工肛門などの内部疾患がある方が主に利用されています。龍谷大学の各キャンパスにもいくつか、オス

トイレ対応トイレがあると思います。これらが、使いやすいトイレ。

次に使いにくいトイレです。①ゴミなどが散らばっている。②手すりがない。③ベッドが出しっぱなし。この3つです。とくにベッドが出しっぱなしになっていると、トイレ内のスペースが狭くなり出入りがしにくくなるからです。



龍谷大学の多機能トイレ

最後に、みんなが使いやすいトイレです。どうしても車椅子ユーザーからの視点になってしましますが、スペースが広くボタンや手すりの操作が簡単なこと。内部疾患がある方や、性的マイノリティの方など、見た目でわかりにくい方でも使いやすい標記が必要です。そして、多目的トイレのように、このトイレを必要とする人がいるという意識



扉が押しボタン式のトイレ

を持つことが大切です。トイレについて、みなさんが自分なりに考えていただくようになれば、うれしく思います。松永 さきほどのトイレの画像が、驚くほど汚かったのですが、こういうことはよくありますか。

新川 テーマパークだとか、ライブ会場の近くだと、そこで着替える人がいて、不要なものをトイレに捨てていくなどで、あのようなものではないでしょうか。

松永 では、ここからは実際にトイレ施設の管理や設置に関わっておられる国際基督教大学（以下ICU）の管理部管財グループ長の高田晃志さんに、登壇いただきます。ICUでは、オールジェンダートイレを設置されるなど、先進的な取り組みをされています。

## ICUでの取り組みとは

高田 ICUは、東京の三鷹市にあり、学生数は約3000人ほどです。今日は、オールジェンダートイレについて、設置に到る経緯や工夫、反響などをお





高田さん

話しいたします。

まず、最初からオールジェンダートイレという話があったわけではありません。大学の話が2015年に不満の声があがって、2015年にウォッシュレットを設置しましたが、根本的な解決には到りませんでした。大学には戦時中、戦闘機設計の研究所だった古い建物があります。歴史的建造物ということで、残して存続利用することになりました。大規模な改修を計画していますが、それに先立ち、トイレを優先的に改修することになりました。

その中で最初に検討したのが、男女のトイレの数です。男性用トイレが圧倒的でした。ICUでは全学生のうち女子が3分の2をしめています。トイレを男女の比率に合わせる必要があるということになり、そのときにオールジェンダートイレを設置してはどうかという意見が理事と学生部から出たので、設置の方向に進めることになったというのが、その経緯です。ICUの理念に合わせ、「世の中の問題を解決」できるようなトイレがあれば、ということでした。

では、オールジェンダートイレというものを具体的にどのように作っていくのか。通常の男女別トイレの利用に抵抗感がある人もおられると聞いていたので、いろいろと検討しました。その中で、利用する人数が少ないのだから、多目的トイレがあればじゅうぶんなのかどうかという問いがあり、大学としてどう考えるのかということを検討しました。

男女共用のオールジェンダートイレを設置した利点として、すべてのトイレを男性女性も、多様な性自認の人も使えるようになったことで、男女比のバランスが難しかったトイレの数の問題を解決することができたということです。一方、教育の面ではジェンダー教育の場として、一人ひとりがこの問題を考えるきっかけになるという点でしょう。

でも、課題も少なくありませんでした。男性と同じ所に入りたくないとか、使う人の心理的な抵抗感ですね。盗撮されるんじゃないとか。それから、ICUに初めて来て、トイレを利用する人の戸惑いです。そもそも、どうやって使えばいいとか。設置前のアンケートには、男性の小利用の際、大便器の便座をあげて、男性が立っておしっこをすると周辺に飛び散ってすぐく汚れるので、そんなのを使いたくないという意見もありました。

そうした中で、どんな工夫をしたか

## ICUオールジェンダートイレの工夫



- ・ すれ違いを減らすワンウェイの動線
- ・ 風車形状のブースプラン
- ・ 広めの個室内でトイレ・洗面が完結できる
- ・ 男子専用の個室小便ブース
- ・ 性別関係なく利用できるミラー＆カウンター
- ・ 自然光を用いた、奥が明るく入りやすい通路
- ・ 行事などの際に男女別トイレに変更可能

について、紹介したいと思います。さきほど、心理的な抵抗感があるという話がありましたが、出てくる人と入ってくる人とのすれ違いを減らすワンウェイの動線、具体的には風車形状のブースプランにすることです。そして、広めの個室内での手洗い。男女が並んで手洗いするのは気まずいという人も

いたので、個室の中で完結できるようにしました。また、意外と思われるかもしれませんがオールジェンダートイレの中に、男子専用の個室の小便ブースを作りました。

さらに、化粧等に利用できるスペースを設置しました。名称は「ミラー＆カウンター」とし、男子・女子ともに利用すること、女子トイレの化粧スペースで一般的に使われる「パウダールーム」の名称は避けることにしました。入試などで男女別トイレに戻したいというとき、3分の変更できる作りになっています。利用者の中には、盗撮や音漏れを気にする人がおられるので、下から上まで壁材を使つての防音対策を実施しました。

最後に、オールジェンダートイレの設置のために重要だと思うことを、まとめてお話ししたいと思います。オールジェンダートイレについてアンケートをとると、必ず賛否が発生するので、学長や理事などの経営レベルの判断で

設置することが、大事だと思います。また、使いたい人、使いたくない人への配慮としての代替場所です。ICUでは、本館の真ん中のトイレは、このオールジェンダートイレですが、反対側に従来の男女別トイレがあり、どちらも使えるようになっていきます。ICUのようなオールジェンダートイレが必ずしも最適とは思いません。これが公園の公衆トイレだったら使いづらい。大学だからできたので、場所とか環境に合わせた設計が必要だと思います。

一方、利用者への教育も欠かせません。利用者や利用したい人も、なぜそういう施設があるかということを、理解してもらう必要があるでしょう。

こうしたオールジェンダートイレを設置することで、いろんな反響がありました。うれしかったのは、「自分はこのトイレを利用したときに抵抗があったが、マイノリティの人が今までどのような気持ちで男女別トイレを使っていたのがわかった」というアンケート

トの回答があったことです。また、トイレを使っていて、まったく気にならなかった、困ったことはなかったと書いていただいた人もいっぱいいて、本当にうれしいことで、成功したと思います。

松永 たしかに賛否があるというのは、その通りで「施設や設備は大学の意思」だということに共感しました。私自身、「トイレは社会の縮図」だと思っています。

続いて、株式会社LIXILの日野晶子さんをお願いします。登壇者の中で、一番トイレ事情に詳しい方かと思っています。

## 公正な社会の実現のために

日野 私からは、性の多様性から考える、性自認にかかわらず利用しやすいトイレとはというテーマでお話をしたいと思います。

株式会社LIXILは住まいと暮らしの総合住生活企業ですが、パブリッ

ク向けの製品も開発提供しています。その代表のひとつがトイレです。多様性の尊重および、トイレへのアクセスは基本的人権であるとの観点から、誰もが安心して快適に利用できるパブリックトイレを目指しています。

ではなぜ、そのようなパブリックトイレが必要なのでしょう。公正な社会の実現のためには、さまざまな人が社会に参加できることが非常に重要です。この「社会参加」のひとつに「外出すること」があります。大学に通学することも、そうです。その外出先の



日野さん

大事なインフラのひとつが、トイレです。ゆえに、さまざまな人が安心して利用できるトイレが必要なのです。そこには当然、性的マイノリティの人びとが含まれ、中でもトイレの利用に困るのは、性自認のマイノリティであるトランスジェンダーの人びとです。そこで、性自認にかかわらず、利用しやすいトイレの整備として、①男女別トイレ内の仕様を工夫する。②多機能トイレをオールジェンダートイレとして位置づける。③男女共用広めトイレを設置する。④すべて個室のトイレとし、選択できるようにする、この4つのパターンが考えられます。

このうち③と④について、お話をいたします。まず、男女共用広めトイレを設置するという考え方です。背景には、多機能トイレのニーズと課題があります。大学でも性の多様性への配慮として、多機能トイレを「だれでもトイレ」としたり、「オールジェンダートイレ」と標記したりという動きがあ

ります。多機能トイレが普及しはじめたのは2000年ころだと言われますが、トランスジェンダーのニーズが顕在化したのはここ数年です。トランスジェンダーが多機能トイレを利用しやすいと感じる理由のひとつは、異性介助への配慮から男女共用であることが多いため、性別を気にせず利用できるということ。次に、さまざまな人の利用が想定されているので、まぎれることができ、目立たないということ。つまり、心理的な安心感があることが非常に大きいと考えます。

トランスジェンダーの中でも男女どちらのトイレも利用しづらい人が、多機能トイレを利用したいと考えたり、実際に利用したりということが多いと思います。ただ、多機能トイレの利用には課題もあります。LIXILの調査では「多機能トイレ利用時に気まずい」と回答したトランスジェンダーが58%いらっしゃいました。

たとえば、障がいのある方が来られ

たら申し訳ない、「だれでもトイレ」利用時に、掃除の人に注意された、多機能トイレでない男女共用のトイレがあるとよいといった声が数多く寄せられました。一方で、国土交通省が2011年に行った調査では、多機能トイレで待たされた経験がある車椅子ユーザーが94%という結果も出ています。多機能トイレというのは、その名の通り多機能であるがゆえに利用が集中しがちからです。

そこで、男女共用広めトイレを設置するという考え方です。多機能トイレとは別の選択肢として、性別を気にせず気軽に利用できる個室トイレを設置します。用足しから手洗いまで完結できる壁で仕切られた個室のトイレで、一般的な大便器ブースより、広めとなります。LIXIL本社にも設置した事例があります。

ところで、多機能トイレを利用しつつも、気まずいと感じている人たちは、トランスジェンダーだけではありませ

ん。たとえば保護者と子どもの性別が異なる場合や、車椅子は使っていないけれども、保護者や介助者が異性といったケースです。知的障がいがある人の中には、大きくなってもトイレの見守りが必要な人がいらっしゃいます。たとえばお母さんと大きくなった息子さんの場合、多機能トイレを利用されますし、認知症の高齢者などの異性介助として、介助者が異性の配偶者や親子きょうだいといったケースも増えています。つまり、多機能トイレではない男女共用で使えるトイレのニーズが一定数あるわけです。そして、介助者と一緒に入れる広さがあると、利用しやすくなります。ここでも「広め」がキーワードになります。このように、男女共用広めトイレを設置すれば、一定のニーズを満たすことができます。しかし、中には特別感を抱く人もいるかもしれません。

そこで次のステップは、全て個室のトイレとし、選択できるようにすると

いう考え方です。車椅子ユーザー、オストメイト、乳幼児連れに配慮したトイレ、男女別、男女共用の個室をそれぞれ設け、利用者が選択できるようにします。こうすることで、男女共用トイレの特別感が薄れて、より平等に選択できるようになる可能性があります。このような考え方を具現化したトイレはまだ少ないと思いますが、筑波大学の構内にある、カスミというスーパールのトイレの事例があります。

最後に、あらためて性の多様性を尊重したLIXILの基本的な考え方を紹介します。トイレへのアクセスは、基本的人権のひとつです。一人ひとりの性自認、プライバシーと尊厳が尊重され、利用者の意思に沿う選択肢があること、それらを利用しやすい環境を整えることが重要だと考えています。建築的設備を整えるだけでなく、利用者一人ひとりの理解と施設運営者側や組織の積極的取り組みというソフト対応が伴うことで、利用しやすい環境が

生まれると思います。こうした取り組みが三位一体になってはじめて、性自認に沿ったトイレを利用したり、男女共用トイレを利用したりすることが、あたり前に受け入れられる社会の第一歩になるのではないのでしょうか。

松永 ありがとうございます。トイレが公正な社会の実現のための重要なインフラだと。

では最後に、他大学にて性的マイノリティの授業も担当されている、本学卒業生の西田さんです。

## 性別移行について

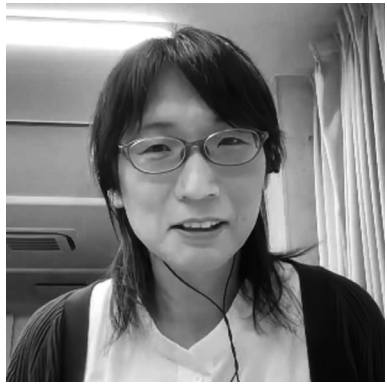
西田 私からはトランス男性、トランス女性の学生、教職員へのトイレ対応について、お話ししようと思います。

今、世間で、というよりも、twitterなど、主にSNS上でトランスジェンダーに対する排他的な言説が、ものすごく吹き荒れていて、当事者のメンタルヘルスが著しく悪化している状況にあります。

自民党が国会に提案していたLGBT理解増進法というものがありました。が、このSNSでの排他的な言説が、法案の取り下げに至る流れにも大きく影響を及ぼしていました。こうしたことは、トランスジェンダーへの誤った認識や、生活実態や生活移行について知らない人が多いことに一因がありますので、実態や生活移行について紐解きながら、トイレの対応を考えるための参考となる情報をお伝えできたらと思います。

まずは用語を、もう一度確認しておきたいと思います。「トランスジェンダー」という言葉がありますが、日本では「出生時に割り当てられた性別とは異なる性自認(Gender Identity)の人」、「割り当てられた性別とは異なる性別を生きている(生きようとしている)人」と、このようなふたつの言い方があります。どちらも、出生時の性別とは異なっている性別のあり方を持つ人を説明するものです。





西田さん

トランスジェンダーのうち性自認が男性であり、男性として生きている、生きようとしている人はトランス男性。性自認が女性であり、女性として生きている、生きようとしている人は、トランス女性となります。日本ではトランスジェンダーという場合、主にこのトランス男性、トランス女性を指して使われることが多いです。

他にも「出生時に割り当てられた性別とは一致しない性自認」「出生時の割り当てられた性別とは一致しない性別を生きている人、生きようとしている

人」は、「ノンバイナリー」や「Xジェンダー」と言われるもので、「トランスジェンダー」という言葉にも包括される人々です。

ですから、トランスジェンダーといっても個々の属性においては、生活実態がまったく異なっているということ考虑したうえで、対応を考えなければなりません。もちろん、トランス男性、トランス女性においても、個々人の生活実態というのは多様で、画一的な視点では、実態に伴ったニーズを反映させられません。

ここからのキーワードは、性別移行と文科省の通知、という2点です。

性別移行とはトランス男性、トランス女性が、出生時に割り当てられた性別での社会生活から、性自認に沿った社会生活を送るために行うこと全般を言います。世間一般で語られるトランス対応となると、どうしても性自認という言葉ばかりに重きを置かれ、この性別移行の観点が抜けていることが多

く、生活実態についての視点、論点が省かれていることがかなり多いです。

この性別移行を3つの側面から詳しく見ていきます。まず、ひとつ目は性表現の移行で、服装とか言葉づかい、髪型、容姿など、外見に現れる性別の移行です。ふたつ目が、性的特徴、身体特徴の移行です。これは医学的なもので、ホルモン治療とか性別適合手術などです。そして、3つ目が社会的性別の移行で、通称名や名前の変更、学校や職場での対応の変更、家族や周囲の人との関係の再構築を伴う移行などです。最終的には、戸籍性別変更というのがあります。

こうした性別移行は年単位の時間を要しますし、移行過程には中途半端な状態が生じてしまいます。この移行過程で直面するのが、トイレ利用の問題なのです。ですので、今から女って言うだけで、その日の服装を変えただけで、性別移行が一瞬で終わることはありませんし、移行した生活が成り立つ

ていないのにトイレだけ利用させてくれというのはおかしい状況設定なわけ  
です。

したがって、トイレの利用に関しては、個々人の性別移行度と生活実態に沿ったきめ細やかな対応が求められます。特に性別移行済みの当事者をアウティングしない配慮というのが（プライバシー保護の観点から）ものすごく重要になってきます。

ここからは、文科省の通知と、学校対応の話になります。2005年から2017年にかけて、性同一性障害とされる児童が小学校に入学し、高校生まで女子生徒として過ごして卒業したという全国初の事例があります。他にもいくつかこうした事例が報告されています。

そこで文科省が対応を検討して、2015年に「きめ細かな対応について」という通知を、全国に出しました。こうしたことから、お茶の水女子大学をはじめとする女子大が、ちゃんと受け

入れないと学ぶ権利を侵害してしまうと、受け入れを検討してきました。ですから龍谷大学にも、こうして入ってくる生徒が出てくるといえるでしょう。そうした生徒には、すでに性別移行して生活してきた生徒や、性別移行はできてないけど対応を受けてきた生徒もいるでしょう。既に性別移行してきた教職員が入ってくる可能性もあります。そして大学入学後に対応を求める学生や在職対応を求める教職員も出てくるでしょう。また、母国で居場所のない性的マイノリティの学生が、海外に留学することで、居場所を求めてきているケースも結構あるようですので、こういう人たちへの対応も、求められていると実感しています。

トイレというのは外性器や戸籍の性別で区分されているのではなく、（実質的に）ジェンダーで区分されています。ですので、性別移行を実現している学生に対しては（外性器の手術の有無や戸籍性別に関わらず）生活実態を考

慮したうえでアウティングされる危険性を払拭した対応を、また性別移行の過程にあるならば、面談のうえ、性別不合の診療で行われるRLE（実生活体験）の一環として移行過程において直面する問題の検討と解決を本人にも考えてもらいながら、きめ細かに対応していく必要があるということを、みなさんに提案して終わりたいと思います。

松永 龍谷大学のトイレは、この数年でずいぶん整備が進みましたが、まだまだ改善していく課題がたくさんあります。「誰もが安心して利用できるみんなのトイレは（大学）組織のメッセージ、社会の縮図である」と言うことができます。龍谷大学は「構想400」で将来ビジョンとして「まごころ――Magokoroある市民を育む」を掲げています。仏教SDGsの視点も含めたこれらの考え方がその原点になると思います。みなさん今日は貴重な時間を共有させていただき、誠にありがとうございました。

座談会

# 「育児は育自」

## 自分が育つ

短期大学教授

中根 真

まこと

図書館事務部職員

田中 充

みつる

総務部人事課職員

柴田 卓

たく



中根 今日の座談会は男性3人ですが、それぞれ共通しているのは、それなりに子育てに向かい合っているということです。その話を中心に進めていこうと思います。私は進行役で短期大学の中根です。

私は2008年度の一年間、4月1日から翌年3月31日まで、育児休暇（育休）を、長男を出汁にして取らせていただきました（笑）。その当時、男性ではたしか国際文化学部の方が3ヶ月ほどお取りになったという例くらいしかなかったと思います。

田中 図書館に勤務しています。私は、一人で家事や育児をするワンオペ育児中で、息子は今、小学校6年生です。2017年、息子が2年生のとき、妻にがんが見つかり2年間の闘病後、2019年11月に亡くなりました。その後、直後にコロナがやってきて、悲しむ間もなくワンオペ育児に突入という感じでした。2020年の3月からは小学校の授業が止まったので、慣れないお弁

当作りを3か月間続けました。

柴田 現在、上の子どもが3歳、下が1歳で、共に保育園に通っています。ちょうど今、コロナの感染者が出たので休園していて、妻と時間の折り合いをつけながらやっています。育休をとったのが、2020年の8月から翌年の2月まで、半年間です。

## 「育休」取得者が増えた

中根 柴田さんは、2人目のお子さんのときだけですか。

柴田 そうです。1人目のときは妻にまかせっきりでした。ただ、2人目になって上の子と歳も近かったし、妻の実家が遠方なので、妻の両親には頼れない。私の親は、そばに住んでいる姉夫婦の子どものフォローで手いっぱい。で親には頼れません。だから育休を取るしかないと……。

中根 なるほどね。

柴田 2020年のゴールデンウィー

クに2人目が生まれ、直後にコロナがはやり出して、そのときは大変でした。上の子はまだ保育園に預けていませんでしたから、一時的に実家に戻って、子どもを預けました。

中根 お連れ合いさまはフルタイムで？

柴田 今は時短を使っています。

中根 そうなのですか。私の場合、妻はフルタイムで高齢者福祉施設に勤務しています。だから、宿直や夜勤があ



中根さん

って家に帰ってこない日もあります。また、救急搬送などで定時に帰れない職場ですね。

現在、上の子が19歳、そして14歳、10歳で、それぞれ5歳ずつ離れています。まあ、長い長い育児生活でした。今思えば、ぎりぎりな感じでやっていった気がします。

田中 それは、長いですねえ。

中根 田中さんが、お連れ合いさまのご逝去に伴って、心の整理もつかないままに、今の生活をされている状況と、柴田さんや私のように、育休をとったという経験は、同列ではないと思います。ですが、この座談会では、男性の育休や家事の実態の一部について、どんなもののかを紹介できればと思います。

一般的に、仕事にバリバリのめり込む男性像、その是非はともかく、日本の社会である程度評価されてきました。過去に「24時間、働けますか」というCMがテレビで流れるような時代があって、会社人間として生きること

が是とされてきましたが、今ではそのあたりがずいぶん変わってきました。大臣が育休を取ったりとか、各地の知事や市長さんが育休を取り、育メンや育ボスのプロジェクトのようなものを国が進めたり。

ところで、日本の男性の育児休暇の取得率を見ると、直近の2020年は12・65%で、私が取得した2008年は1・23%でした。ずいぶん男性の取得率が増えました。

柴田 たしかに増えつつありますね。

中根 ただ、男性の育休の場合は、長さが多様なですね。ある人はものすごく短い。ファミリーフレンドリー企業のイメージをかし出すため、会社から2週間の休暇取得を促されるなど短期間の「育メン」を奨励する企業もあると聞いています。しかし、妻・母親の方から見れば、「なんちゃって育メン」はありがた迷惑というのか、外で「イクメン」とちやほやされているが、家では育児どころか、コーヒーの

一杯も自分で入れないなど笑えない実態もあり、新たなストレス源になっているとも聞きます。

ところで、育休については、長所と短所さまざまだと思います。柴田さんはさきほど、20年の8月から翌2月までの半年弱ということですが、実際、大学の仕事から距離をとって子育てとか家事をされた。どうでしたでしょうか。

## 「チーム」として取り組む

柴田 ええ、よく聞かれますが、すごくしんどかったと返答することが多いですね。先ほども言ったように、子どもの歳が近いことと、下の子がミルク嫌いで飲まない。今は丸々と太っていますが、とにかくミルクを飲まないのですね。おなかがいっぱいにならず寝られない。基本的に私が上の子をみて、妻が下の子をみる。休めるのは、子どもが下のときですが、上の子は眠

りが浅く昼寝時間も短かったのでストレスがつのる毎日でした。妻がワンオペでやっていたとしたら家庭崩壊していたでしょうね。

自分自身はすごくしんどかったのですが、家庭という「チーム」とっては、育休を取って間違いなくよかったですと思っています。それと、これまででなかった勉強とか趣味とか、育休のおかげで久し振りにやることができました。他に手助けが無い環境であれば、オペレーションに慣れるまでの3か月ぐらいでも、男性が育休を取った方がよいと思っています。

中根 そうですね。お話を聞きながら思い出しましたが、わが家では、いちばん下の子は母乳しか飲まない「おっぱい星人」でした(笑)。上2人の子の場合、母乳はそこそこでミルクをたっぷり飲むタイプだったので、ずいぶん違いました。子どもの母乳やミルクへのこだわり1つでも、妻・母親の負担だけでなく、夫・父親など周囲の支



え方の状況が変わってきますね。

ひと昔前であれば、実家に帰って実母にサポートしてもらうのが一般的でしたが、さきほどの柴田さんのように、現代では諸事情で実家に頼ることができないケースも多々あります。その場合、実母あるいは実家の支えに代わって、妻・母親の心身両面の負担を、誰がどうやって軽減・緩和するのか、そのことをどれだけ夫・父親が理解して寄り添えるのが問われているわけですね。

ところで、田中さん、お連れ合いさんがお亡くなりになられたのは、お子さまが小学生のときでしたね。

田中 小学校4年生の秋、9歳でした。

### 「ちっちゃなこと」こそ

中根 では、乳幼児期はご夫婦で子育てを？

田中 はい。妻自身も小学校2年生のときに、自分の父親をがんで亡くして

田中さん



います。なので結婚するまで長い間、女三代、祖母と母親と一緒に暮らしていたそうです。で、結婚が決まる頃に祖母が亡くなりました。キャリアウーマンだった母親もそのころに退職。母親（つまり私の義母）にとっては母と娘がほぼ同時期に、家からいなくなつて、一人暮らしが始まりました。良くも悪くも身軽になったので、子どもが生まれたときは、1か月くらい家に来て手伝ってくれました。妻は子どもが

2歳の頃が、いちばんしんどかったと言っていましたね。ちょうど私が京都から滋賀のキャンパスに移ったときでして、帰宅がいつもより遅くなっていたからでしょう。

妻のお母さんには、本当にいろいろお世話になり、助けてもらいました。一方、私の両親はありがたいことに健在です。ただし、老々介護状態ですが。

中根 お近くにおられるのですか。

田中 一時間以内に行ける所です。でも、一緒に住むとなると、お互いがしんどい思いをしなければなりませんので、今は息子と二人暮らしです。

妻が亡くなったとき、義母と一緒にいてくれたのですが、義母と私がお互いによかれと思ってやるのが、どちらも負担になるのです。すごくちいさな話になりますが、お義母さんがほうれん草のおひたしを作ってくれたとき、お醤油をかけて出してくれる。でも、食べる頃にはその醤油の香りは飛んでいて、ただただ塩からい。私は

食べる直前に醤油をほんの少したらず派なんです(笑)。

中根 お義母さんからすれば、娘に代わって私がという思いが……。

田中 そうなんですよ。気持ちはありませんが。

中根 田中さんは子育ての話から始まって、お連れ合いさまの闘病生活とご自身の仕事の両立とか、まだまだお聞きしたいお話があるのですが……それだけでなく、さらにご両親の老々介護の問題まで、私たちが生まれてから死ぬまで、誰かのケアと常に隣り合わせに生きているのだということを、ぎゅっと凝縮した縮図のように語っていただきます。

その中で、ほうれん草とお醤油のお話は、職場で話しても、何を「ちっちゃなこと」を言っているのだと、話題にもなりませんね。ですが、ケアの現場といえましょうか、誰かのくらしを支える現場っていうのは、常に、そして絶えずそういう「ちっちゃなこと」

の積み重ねであるわけです。私ごとになりますが、現在、学部長をしているので、毎週、大学の諸会議に出席して、大規模な予算の説明を聞き、審議しているのですが、そこでは当然、キッチンから見えてくるような「ちっちゃなこと」というのはまったく出てきませんね。まさしく対照的な光景を見えます。

しかし、ケアと隣り合わせで生きるということとは「ちっちゃなこと」の具体的な積み重ねであり、これに尽きると言っても過言ではありません。例えば、今日の夕飯は何にしようかと冷蔵庫を開け、残っている食材の賞味期限や状態を見て、始末をつける料理を考えていきますね。生活時間の国際比較調査が明らかにしていますが、日本では女性に比べ、男性が家事や育児にたずさわる時間が少ない現状があるなか、逆に「ちっちゃなこと」がとても大事な意味を持つのではないかと考えています。「灯台下暗し」とも申します。

足もとのことを見落として、一所懸命に遠くを見て仕事をしているのではないかとという危惧を抱きます。

ところで、私が育休をとったときは、さきほどの柴田さんの体験とは、ずいぶん異なり、まったくしんどくはなかった。むしろ、もっと休暇を続けたいと思いました。

## 「育休」でわかったこと

柴田 そうなのです。

中根 ただし、所得以外の面ですね。収入減はものすごくこたえました。貯蓄を切り崩しながらです。そのとき、38歳でした。その働き盛りのときに育休で1年間仕事を降りたので、いろんな気づきがありました。いちばん大きかったのは、それまで教育や研究するという仕事が好きだと思い込んでいたのですが、実は自分が勉強しなかったのだということに、離れてみてはじめて気づいたことです。

田中 一旦、離れてみてこそですね。

中根 それまでは1年に1本ほどしか書けなかった論文が、育休のあいだに3〜4本も書けるようになりましたね。今だから言える話です。子どもを上手く寝かしつけた後、自分の勉強や論文を書くのですが、子どもと波長を合わせることで段取りがよくなったのでしよう。子どもがいつ熱を出してもいいように、早め早めの準備をしていました。たとえば原稿の締め切りが月末なら、自分の中でのメ切を20日に設定して、何があっても25日くらいには仕上がるように、早め早めの段取り力を身に付けたからだと自己分析しています。自らの体験だけでするので、断言はできませんが、男性は女性と比べると、段取りや時間の使い方が下手なのかもしれないと痛感しました。子どもと波長を合わせる経験が段取りや時間の使い方を見直すきっかけになり、結果的に研究や授業準備に関してものすごく効率が上がりました。

柴田さん



柴田 それは驚きですね。

中根 自分自身のことが、すべてに当てはまるとは思いませんが、短期間にぎゅっと凝縮してやることを、子育てや家事をすることで学びました。柴田さんは、そんなことはなかったですか。柴田 たしかに、仕事でも家庭でも、隙間（すきま）を縫って時間を使うようになりました。たとえば前よりも研修や勉強や運動をするようになったりと、やらなければならぬことの隙間で、

余地を見つけて行動するというクセがついたようです。

中根 それは、いわば単一のチャンネルから、多チャンネルになったからでしょう。

柴田 そうだと思います。

中根 私も、隙間時間でいろんなことをするようになりました。例えば、子どもが熱を出したので、病院に連れて行き、薬局でお薬をもらうまで待ちますね。その待ち時間に置いてあるレタスクラブとかの雑誌を見て、今日の晩ご飯はこれにしようとか、写メに撮る（笑）。空き時間に次の準備をする。多分、これって、世の働くママにとって常識でしょうが。

田中 いろんな役割が、何倍にも増えた感じがしましたね。だから効率よく動かないといけない。そんな中で私は町内会の会長をやっていました。町内にホテルが建設されるといので、夜おそくまで説明会に出たり、少年補導で夜回りしたり、お祭りの準備とか。

そこに主婦はいないので、買い物をしていないといけません。それからご飯を作ったり、掃除や洗濯したり。

そんなことで、この2年間、夕食を準備して食べて、風呂に入って、バジャマに着替えて布団で寝るという当たり前のことが、平日5日間連続してできたことがあります。ワイシャツのまま寝て朝風呂とか、しよっちゅうです。やらねばならないことができて、できていなくても、寝ていなくても、必ず次の朝がやってきますね。

息子が体調不良で欠席するときは、やむを得ず私も休みを取ります。せっかくの平日なので隙間を見つけて銀行に行ったりしたいのに、実際はすごく疲れているので、結局息子と一緒にぶっ倒れていたりと、ぎりぎりの状態です。

中根 妻と2人で何とか家事・育児をしている状態と、田中さんのようにワソオベでやっていく状態というのはぜんぜん違うと思います。そのような中で、田中さんが身近に相談したり、頼

ったりするような方はおられたのでしょうか。

田中 幸いに友だちはたくさんいますし、町内の方も気を付けて見てくださいます。一昨日も家に帰ったらお煎餅の袋が置いてありました。息子に聞くと町内会長のおばさんが、持ってきてくださった。

日頃、いちばん相談したいのは、子どもの教育のことです。「うん、そやな」と相槌を打ってくれるだけで助かるのですが、うなずいてくれるはずの妻がない。

今、息子とバトルしているのは、中学校に上がったときのお弁当をどうするかです。京都市では希望者は毎月、注文したら給食をとることができまので、一日一回でいいから、おやじのメシではないマトモなものを食べさせたい(笑)。ところが息子は中学の給食は美味しくないという噂をクラスメイトから聞いていて、私に作ってほしいと。

中根 一緒に、同じお弁当を食べようということですね。

田中 子どもが体調不良で学校を休んだとき、カレーを作ったのですが、夕方には元気になっていたので手伝わせました。すると、「僕はだし巻きを作ろう。カレーとだし巻きは合うかな」と言うのです。物を作るのが面白いと感じたのでしょうか。

中根 わが家も弁当が必要な時、母親は定時で帰れず帰宅が遅いため、私に「お父さん、明日、弁当作って」と言うので、「いつもの手抜き弁当やで」と。炒り卵と缶詰のサンマの蒲焼きをオンするだけの「二色弁当」なんです。定番でもそれがよくなってくるから不思議です(笑)。柴田さんのところは、どうですか。

### 「手抜き」こそ

柴田 うちの子どもが通っている園は、お弁当は幸いにも月1回だけです。

今、田中さんのお話をお聞きして、ワ  
ンオベで育てておられる方は、やつぱ  
り上手に手抜きしなければならんとい  
思いますね。安くておいしいおかずが  
たくさん売られていますし、ロボット  
掃除機もあります。とにかく無理し  
さないで、できるだけ手を抜く。

長期間にわたって無理を続けると、  
どこかが壊れてしまいます。この4月  
から育児介護休業法が改正され、産後  
パパ育児が創設されます。こういうこ  
とをきっかけとして、誰かに無理を強  
いることがないようになればと思いま  
す。シッターにお願いするとか、家事  
の代行サービスや食事のサービスとか、  
有料ですがいろいろありますし。

**中根** 実家が近距離にあっても頼れな  
いケースもありますが、私は妻の実家  
の隣の隣に、家を建てたのです。もち  
ろん、サポートしてもらえんと思って。  
ところが、頼りにしていたお義母さん  
が若くして認知症になられて、介護と  
子育てとのダブルケアをまのあたりに

したことがあります。お義母さんは  
すでに亡くなりましたが、実家のそば  
なら、絶対に安心ということはないで  
すね。やはり柴田さんがおっしゃった  
ように、一極集中で誰かに無理をさせ  
すぎないように考えていく必要があります  
ですね。

**田中** 妻が亡くなる最後の1か月は、  
積極的な治療ができなくなったので、  
退院して、在宅緩和ケアで残った時間  
を過ごしました。そのとき、福祉の仕  
組みというものが、こうなっているの  
だと実感しました。

病院の地域連携室の方、地域包括支  
援センター、訪問診療のドクター&看  
護師、訪問看護ステーション、訪問介  
護ヘルパー、介護タクシー、福祉用具  
の業者などにお世話になりました。一  
度週末に医療用麻薬が足りなくなっ  
たことがあります。この痛み止めのお  
薬は、一般の薬局には置いていません。  
いろんな所に電話をかけて、苦労して  
手に入れました。ドクターにその話を

すると、次の日から薬局の方が家に届  
けてくださった。また、訪問介護の方  
には自立支援という形で、調理の仕方  
を教わったり。

この期間は、家族がいなくてもいろ  
んな人が勝手に入れるようにと、合鍵  
を作りました。ドクターには「自分た  
ちだけでケアに立ち向かったら、いつ  
か破綻しますよ。もし家族がいないと  
きに息を引きとられても、その姿を見  
せないように亡くなられたと思ってく  
ださい」と言ってくれました。

最後はホスピスに1日だけ入って亡  
くなったのですが、日々状況がどんど  
ん変わっていく中で、いろんな福祉  
医療のサービスがあるということを知  
りました。

**中根** なるほど。結局、ターミナル期  
間の特別なケアは家族だけでは乗り切  
ることがとうていできないので、外部  
の専門のスタッフに入れ替わり入って  
もらって、その期間を少しでもスムー  
ズに過ごしてもらおう工夫ですね。



田中 そのとおりです。

中根 日常の子育てや家事を円滑に進めることと、いま田中さんがおっしゃった非常時のケアの状況とは同じではありませんが、家庭の中で何でもかんでも抱え込むというスタイルが難しいという状況が現代社会にありますね。その意味で、柴田さんがおっしゃったシッターや家事代行など様々なサービスをうまく活用することも解決の一案ですね。

田中 だから、「助けて」と言うのは必要だと思います。

## 人間として成長する

中根 ここまでずっと話し合ってきたが、最後に何か言い残したことはありませんか。

柴田 育休を取らせてもらって、何ひとついやなことを言われたこともなく、ありがたく思っています。そして、私のあとに同僚が育休を取ったこともあ

りましたので、職場に残った立場も経験しました。

ただ、同じ職場で3、4人がいつきに育休で抜けたとしたら、職場が崩壊してしまうだろうと思います。これから法律が改正されて、もっと育休が取りやすくなると、職場での仕事の分担や共有の仕方などを、変えていく必要があるかなと思います。

今日、育休についての座談会があるということ、ちょっと調べていたら、「男性育児白書」という調査が民間で行われていて、「男性が育休を取ることに賛成する」経営者は24%、同じく「育休することを促進する」が半数未満。でも、さきほどからお話の中に出ていた「日常のちっちゃなこと」をやっていないとこれくらいの数字になるのでしょうか。

中根 そうですね。それで思い出しましたが、私が育休取得を申し出た時の周囲の反応です。まず、私の父は昭和14年生まれですが、「育休を取ることに

で龍大をクビにならないのか」と真剣に心配していました(笑)。また、上司は飲み会の席になると、「中根さん、将来の昇進とかに影響するから、育休取得は止めた方がいい」と何回か助言をいただきましたね。ですが、あれから10年以上経ってみれば、学部長を何期も務めさせていただいております(笑)。お陰様で、自らの育休取得体験が短大教職員のワーク・ライフ・ケア・バランスへの配慮に活かされています。育児や介護(遠距離介護を含む)、家庭看護など、誰もがケアの担い手になる可能性があります。大切なのは「困った時はお互い様」だという気持ちを持ち、順送りのこととして、みんなで協力している職場づくりです。結果論ですが、10数年前に育休体験をさせてもらって、一種の管理職研修だったと考えれば、よかったと思っています。

田中 みんなそれぞれ、いろんな問題を抱えておられるでしょうから、そうした悩みなどを言いやすい環境作りが

大事ですね。

ここ数年は柴田さんのように男性事務職員も育休を取る人が増えてきたのはよいことです。この大学は、そういうことができる職場になってきましたね。

現在、パートナーと子育て中の男性は、「なにか手伝うことない？」と声をかけるのではなく、母乳を与えること以外は、ひととおり自分から一緒になさるのがいいと思います。

中根 ええ、男性も子どもを産むこと、母乳を与えること以外は基本的にすべてできますね。一緒にやってみることで、能力は開発され、見事に開花します。

それから、今日の座談会を通しての所感になりますが、本学はコロナ禍の学生支援に細やかに対応してきていますが、他方で私たち教職員のくらしはどうだろうかと考えてみる良い機会になりました。今日はたまたま男性の教職員の子育てをテーマに様々な「ちっ

ちなこと」に光をあててきましたが、

老若男女を問わず、教職員もまた日々、こういう困りごとや生きづらさを抱えているか、そうした足下にある問題の解決に少し関心を向けたいと思いました。無論、職場とプライベートはきちんと切り分ける考え方を尊重しつつ、

人によつては「私は子育てで悩み、困っています」と言えて「そうなんや」と、愚痴も含めてちゃんと聞いてもらえるような職場の人間関係をあらためて見直す必要があるかもしれません。とりわけ、コロナ禍のニューノーマルは孤食、黙食、飲み会無しで定着していますが、学生のみならず、職場での教職員の孤立、とりわけ精神的な孤立を危惧しています。

柴田 聞いてもらったりすると、気持ちになります。

中根 例えば、教職員で子育てについて語り合う場があっても面白いかもしれませんね。子どもも年齢的には0〜18歳までの幅がありますから、乳幼児、

小学生、中学生のように年齢・発達ごとに、各自の関心や必要に応じて語り合う内容は変化しますしね。今ならランチタイムにオンラインで、とか工夫できそうですね。

田中 「男一人親の集まり」のようなNPOがあつて、家族が急に亡くなつて、今まで家事をやったことのない男性に家事の仕方をサポートしたり、料理教室をやったりしています。

中根 そうなのですね。このようにお話をうかがっていると、「育児は育自」という言葉を思い出しました。親は一生懸命に子どもを育てていますが、実は子どもに親としての自分が育てられているのですね。この座談会を通して、「育児」というのはつまるところ、自分自身を人間として成長させる「育自」であることを、あらためて教えられました。田中さん、柴田さん、貴重なお話を、ありがとうございました。

# 性暴力を考える

龍谷大学犯罪学研究センター  
博士研究員  
まさこ  
牧野雅子

## 性暴力と被害者バッシング

「夜中にうろついていたら犯罪に巻き込まれるのは当たり前」「性被害に遭ったのは自業自得」「ハニートラップだったのでは」「女が一人で男の部屋に行くなんて非常識」「一緒に酒を飲むのは性行為に同意したも同然」「若い男性が女性に対して何を考えているか、大学生にもなれば分かっているはず」「本当に性被害に遭ったのなら、肌を出す服装なんて怖くて出来ないものだ」「そんな派手な服を着るような

女性が抵抗もできなかったなんてあり得ない」「痴漢？ 冤罪かもしれないじゃないか」「性被害に遭ってPTSDになった人が、訴訟を起こそうという気になるはずがない」「痴漢を警察に突き出せるような気の強い女が、痴漢被害に遭って逃げられなかったわけではない」：これらは、性暴力事件に関するネットニュースのコメントやSNS等で見られる、性暴力被害者を非難する言葉である。中には、わたしが直接聞いたものもある。

性暴力とは、意に反する性的な言動

のことをいう。性犯罪に該当するような行為だけでなく、性的行為を強いられたことに続く、捜査機関での手続き、まわりからの視線、ふと目にしたインターネットや街を歩いていて飛び込んでくる被害者を責めるような文字列も、当事者には性暴力という一続きの経験に他ならない。たとえ、違う人が言ったのであっても、言った人に悪気がなかったとしても、当事者には暴力以外の何ものでもない。

長い間、性加害は性行為のバリエーションの一つのようにみなされてきた。「減るもんじゃない」「たかが痴漢」という言葉が物語るように、性被害は軽視されてきた。1980年代から使われるようになった「性暴力」は、これは性行為ではなく暴力なんだという、被害者の実感を伝える言葉でもある。

## 性暴力被害者の困難

性犯罪は、捜査機関に被害が届け出られていない、いわゆる「暗数」の多

い事件であると言われる。性被害に遭っても、被害者が警察等に届け出たり相談をしたりするケースは少なく、被害者が幼い子どもの場合は、自分の身に起こったことが性被害だと認識出来ないことも珍しくない。

2020年に内閣府が実施した「男女間における暴力に関する調査」によると、女性の14人に1人が無理やり性交等をされた経験があり、その約6割は誰にも相談しなかったという。男性では、100人に1人が被害を受けた経験を有し、誰にも相談をしなかった割合は7割にのぼる<sup>1</sup>。ジャーナリストの伊藤詩織さんのような、性暴力被害者が、実名で顔を出して自身の被害を公表するケースは、まだまだ稀である。

性犯罪事件の刑事手続きや報道では、まわりの人に被害者が誰であるかが分からないように、被害者のプライバシーが保護される。親しい人からの被害で、加害者名が公表されることで被害

者が特定されるおそれがある時には、加害者の実名報道もされないことが普通だ。被害者保護が進んだからだと思いたいところだが、被害者のプライバシーに配慮が必要なのは、社会の性暴力被害者に対する負の眼差し（ステイグマ）が強固だからだ。性犯罪に限らず、犯罪被害当事者や関係者は、マスコミ報道や近所の人等の好奇の視線にさらされることが多いが、性暴力被害者はより一層の負の眼差しが向けられる。汚れた女だとその「価値」を貶めたり、被害事実は隠しておくものと勝手に決めつけた上で、被害を公言するなんて恥の概念のない女だと断じたり、被害をポルノのように楽しんだり。性暴力被害者のプライバシーに配慮が必要なのは、そうした眼差しが被害者に向けられている現実があるからなのだ。

性暴力被害に遭った人には支援が必要である。まだまだ不十分とはいえ、公的な相談窓口が開設され、被害者に対する医療面や心理面でのケアが提供

されている。しかし、被害者がバッシングされるような社会では、被害に遭ったことを誰かに相談したり、助けを求めたりすることは容易ではない。被害を訴えなければ、被害がなかったことにされて加害者の責任が追及されないことも問題だ。自分が被害を届け出なかったばかりに、加害者が検挙されることなく犯行を繰り返し、新たな被害者を生んでしまったと、自分の「加害責任」を責めている被害者も少なくない。

## 性暴力神話

性被害に遭うのは肌を露出した恰好をしているからだ、嫌だったら全力で抵抗しているはずというような、性暴力についての誤った考え方のことを、性暴力神話や強姦神話と言う。性暴力神話は、被害者に対して行われるバッシングの中にもよく見られるものだ。

若い男性は性欲が強いから性暴力を行うことは仕方がないとして女性に被

害防止義務を課するような風潮はいまだ根強い。これは、男性はみんな性犯罪者予備軍だといっているようでもあり、男性にとっても失礼な話ではないだろうか。多くの男性が危惧している痴漢冤罪の問題も、男性なら誰でも潜在的に痴漢行為の動機を持っているという性暴力神話と無関係ではない。

性暴力は、知らない人から襲われるものだということも、誤った認識である。強制性交等罪で警察に検挙された被疑者と被害者の関係を見てみると、7割近くが既知の関係間で起きたものである<sup>ii</sup>。そのうち、親族からの被害は15.4%である。事件化されていないケースも含めると、知っている人からの被害の割合はもっと上がる。先に挙げた内閣府の「男女間における暴力に関する調査」によれば、無理矢理性交等をさせた経験について、全く知らない人からの被害は1割に過ぎず、交際相手や学校の関係者からの被害が多いことが分かる。ここで、「交際相手からの行

為でも性被害といえるの?」と思った人がいたら、性暴力という言葉の定義をもう一度確認して欲しい。性暴力とは、意に反する性的な言動のこと。相手が交際相手であっても、かつて性的な関係にあった人であっても、同意なく性的な行為をすることは性暴力なのである。

性暴力被害に遭いそうになったら抵抗すべき、嫌なら当然抵抗しているはず、抵抗した痕跡が見られないのは同意していたからでは等と、被害者の言動を疑う見方も根強い。性暴力被害者が被害時に抵抗などできる状態にないことは、ようやく知られてきたとはいえない、いまだに、警察の防犯啓発資料の中には、被害に遭った時には全力で抵抗するように指導するものがあるほどだ。抵抗することで更なる被害の可能性もあり、抵抗すべき、被害に遭った女性性は抵抗するもの、という認識は、被害者の実情に全くそぐわないものである。

## ジェンダーの問題としての性暴力

ジェンダーとは、社会的な性差のことをいい、「ジェンダー平等」「ジェンダー格差」のように、女性が差別的な状況に置かれていることを問題にする場面で目にすることが多い言葉である。犯罪統計を見ると、性犯罪である強制性交等及び強制わいせつ事件の被害者の95%は女性であり、検挙された加害者の99%は男性と、明らかな性差がある。女性が被害に遭いやすい上にその支援が不十分であることから、性暴力は女性に対する暴力であり、ジェンダーの問題であると言われる。

一方で、男性はどうだろう。犯罪統計上は、性犯罪加害者のほとんどが男性であり、男性が被害者になるケースはわずかである。しかし、性暴力被害者支援関連のデータを見ると、少し状況は違ってくる。内閣府の「性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター」<sup>iii</sup>を対象とした支援状況等



調査」によると、2019年6月1日から8月31日までの3カ月間に対応した電話相談のうち、男性からの相談は104%であったが、その後の面談に繋がられた割合は女性よりも低いことが指摘されている。性犯罪というと、男性＝加害者、女性＝被害者と考えがちだが、そういう社会の思い込みによって、男性が性被害の相談を躊躇していることが窺えるのである。

同性からの被害や、男性の性被害は軽視されやすく、「加害者が女性、被害者が男性」の性暴力事案の場合、相談をしても、それが性暴力だと信じて貰えないこともある。性的マイノリティに対する偏見や差別が、性暴力を見えなくさせていることもある。いじめの中で行われる服を脱がす行為、サークルや寮で男性集団の「通過儀礼」として行われる性的な行為や性経験の暴露を強要すること、先輩社員が後輩をいわゆる「風俗」に無理矢理連れて行くといったことも性暴力である。男性

の性被害が軽視されてケアされていないことも、重大なジェンダーの問題である。

### 性暴力の抑止に向けて

2019年3月に相次いだ性犯罪無罪判決に疑問を持った人たちによって始まったフラワーデモは、当事者が被害を語り、その経験や思いを参加者と共有することで、性暴力のない社会を作ろうとする運動である。フラワーデモが始まった時、「性暴力被害者が声をあげ始めた」と言われることがあったが、被害者は、それまでも、ずっと声をあげていたのだった。問題は被害者ではなく、声に耳を傾けようとしてこなかった社会の側にある。たとえば、痴漢被害の話をしているのに、冤罪だって問題だと話をすり替えるのは、被害の話は聴くに値しないと、被害の声を封じているのと同じことである。聴く耳を持たない人に、被害のことを相談しようとは思わない。そして、聴か

れない声はなかったことにされてしまう。性暴力被害者への二次加害というバッシングは、当事者はもちろん、それを目にした人たちに、被害を公言するとこのような目に遭うから黙っていると言っているようなものだ。

2000年代初め、電車の中の痴漢被害を防ぐ目的で女性専用車両が導入された。メディアでは、痴漢被害に遭うのは美人でスタイルがいい若い人だけとばかりに女性専用車両の利用者の容姿を揶揄したり、覗き趣味的な視線で利用者を面白おかしく取り上げる番組や記事が作られてきた。こうした女性専用車両の利用者に投げつけられる視線は、実際の痴漢被害者を萎縮させ、更なる被害を生んでいる。痴漢被害経験があるから、これ以上被害に遭いたくなくて女性専用車両を利用しているのに、同級生から「自意識過剰」と言われ、女性専用車両に乗れなくなってしまう女子高校生もいるほどだ。

被害を公表しても何ら不利益を受け

ることなく、被害者が安心して相談をしたり助けを求められる社会を作ることは、性暴力そのものをなくしていくことにもつながる。そのためにできることの一つが、被害者の口を塞ぐようなバッシングを許さないことである。

性暴力被害に遭った人に対して、抵抗すべきだとか、そんな恰好をするなとか、夜遅くに歩くな等と「アドバイス」をする人たちは多い。それが被害者非難に繋がることは、述べたとおりである。あなたが誰であれ、どんな服装をしていても、どんな時間にどんな場所にいたとしても、相手が知らない人であろうと友達であろうと、性暴力被害にあつていいはずはない。被害に遭ったとしても、それはあなたのせいではなく、加害者が悪い。決して、あなたが警戒をしなかったから被害に遭ったのではない。もちろん、被害に遭わないように、自分の身を守る知識や技術は、持っているに超したことはない。自分だけでなく、他の人が被害

に遭っているのを見た時に助けることも出来る。しかし、性暴力を防止するために、被害者になり得る人が被害に遭わないように自衛をするべき、という考え方は、社会の問題——ということは、社会の一構成員である自分の問題ということでもある——を放置し、性暴力の発生原因を被害者に押しつけるものである。

「アドバイス」をする人の多くは、これ以上被害に遭つて欲しくないという善意から言っていることが多い。思いやりや親切心が、被害者には暴力として届いてしまうとは、何と皮肉なことだろうか。しかし、差別や偏見は悪意からのみ起こるのではなく、悪意があつたかどうかが問題なのではないのだ<sup>iv</sup>。だから、わたしたちは知ること

i 『男女間における暴力に関する調査報告書』内閣府男女共同参画局 2021年3月

ii 強制性交等罪の検挙率は97.4%と高いため(2000年のデータ)、未検挙事件が全て見知らぬ人からの被害であつたとしても、大差はない。

iii 「性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター」性暴力被害直後からの総合的な支援を、可能な限り一ヶ所で提供することで、被害者の心身の負担を軽減し、その健康の回復を図ること等を目的とした、性犯罪・性暴力に関する相談窓口。全国共通短縮番号 #891。各都道府県に設置されており、京都は「京都性暴力被害者ワンストップ相談支援センター 京都SARA(サラ)」<http://www.pref.kyoto.jp/kateishien/kyotosara.html>

iv 金知恵、尹怡景訳『差別はたいがい悪意のない人がする 見えない排除に気づくための10章』2021 大月書店 等を参照。

# ミス&ミスターコンテストについて 語りませんか？

社会学部コミュニケーションマネジメント学科教授

きみえ

田村公江

## はじめに

さいきん、龍谷大学においても学園祭のイベントとしてミス&ミスターコンテスト（以下、ミスコンと略）が行われていることを知りました。知っている人にとっては「何をいまさら」なのかもしれませんが、こういうことに疎いので、ググってみました。公式ツイッターがちゃんとあって（当たり前ですね、「Miss&Mr.Ryukoku 2021（龍大ミスコン）」では、グランプリと準グランプリに輝いた人が紹介されていました。

女性は真っ白なドレス（ウェディングドレス？）、男性はタキシード姿です。

こういう世界があるのか、なんかすごいキラキラしてる。私の大学時代（↑何十年前？）にはこういうのなかったな、いや当時もミスコンはあったかもしれないけれど私には縁がなかったな、などと感慨にふけてしまいました。

ミスコンのような華やかなイベントには縁のない私なので、ああだこうだと言をはさむ資格はないように思うのですが、「性と人権」という授業でジェンダーのことや性の多様性のことを

扱っているの、ミスコンについて少し考えてみたくなりました。最初にお断りしておきますが、ミスコンについて良いとか悪いとか価値判断するつもりはありません。たくさんのお学生たちが真剣に取り組む、盛り上げ、楽しんでいることにケチをつけるつもりはないのです。私が望むのは、ミスコンについて、これまであまり興味を持たなかった人たちにも興味を持ってもらい、より多くの観点から語り合うことです。

# 1. ミスコンの歴史

## (1) 自治体主催のミスコン

ミスコンといえば「ミス・ユニバース」という世界規模のものが本家(?)ですが、日本国内でのミスコンに限って歴史をたどってみましょう。

田中ひかる氏によれば、「戦後、全国各地の自治体や商工会議所が、地域おこしの一環としてこぞって」ミスコンを開催していて、1970年が全盛期だったとことです。しかし、全盛期にすでに女性差別であるなどの指摘があり、堺市女性団体協議会が反対運動を始めました(現代ビジネスオンライン、2020年8月13日)。

70年代と言えば、日本経済が2度のオイルショックを省エネと経費削減で乗り切り、日本型雇用(大企業における男性正社員の終身雇用と年功賃金)をなんとか維持したことが思い出されます。まだまだ日本経済には活気があり

ましたが、日本型雇用の維持の陰には男性正社員の長時間労働化と、主婦や学生が安価な労働力として利用されるという雇用環境の変化がありました。主婦は夫に、学生は父に養われているから安価な賃金がまかり通ったのですから、夫であり父である男性に大黒柱であることを要求し、女性にはパートで働きつつ家事育児を要求する社会になってしまったわけです。ジェンダー論の観点から見ると、男性も女性も幸せにならない社会です。

でも70年代にはまだ、日本経済に元気があり、60年代~70年代にかけて学生運動も盛んだったので、人々の間に社会問題を自分ゴトとする感覚があったのだと思います。(バブル崩壊以降、日本社会には閉塞感が漂い、「社会は個々の市民が何を言おうと何をしようとか、どうせ変わらないのだ」という諦めというかニヒリズムの雰囲気が強くなっていきます。市民運動をする人たちを「プロ市民」と揶揄したり、社会問題をまじめに

考える学生を「意識高い系」とレッテル貼ったりするのですから)。

上掲書に書かれているミスコン批判の理由を箇条書きにしてみました。(番号付けは田村による)

①出場者を「ミス」に限り「年齢25歳まで」などと若い女性に限定していることや、水着姿の女性たちを、ほとんど男性ばかりの審査員たちが眺めて選別していることは女性差別と見なされる。

②官庁や地方自治体が主催し、公費を投入している。

③外見を重視する価値観(ルッキズム)である。

④応募資格には明記されていないが、人種や国籍、障害の有無などによって多くの人を排除しており、多様性を重視するという社会の方向性に逆行している。

今に至るミスコン批判の論点が、既に70年代に打ち出されていたことがわかります。なお、堺市女性団体協議会

の反対運動は大いに成果を上げ、自治体主催のミスコンは減少していきました。

## (2) 日本における大学ミスコン

小林哲夫によれば (AERA dot. 2019年4月4日)、大学のミスコンは1960年代、ミスターコンは1980年代に始まったことです。自治体主催のミスコンが衰退する一方で、ミスコンはキャンパスに場を移して盛んになっていったわけです。

とはいえ、70年代から90年代にかけて、「外見で判断するのは女性差別」という批判も激しく、反対派の抗議や実力行使によってミスコンが中止に追い込まれることもありました。たとえば、1978年には、名古屋大学のミスコンが学内の女性問題研究会からの抗議を受けて中止となりましたし、1987年には、東京大駒場祭における「東大生GALコンテスト」の会場で主催者側と反対派が乱闘状態になり、

コンテストが中止になりました。

ところが、90年代以降、女性差別という観点からの批判は下火になり、「2000年代に入ってから、東京大、慶応義塾大、立教大、青山学院大などでミスコンが盛んに行われるようになる」(小林哲夫氏の上掲書)のです。これらの大学のミスコンはブランド化していき、女子アナへの登竜門になったり、芸能界に入るきっかけとなったりしています。

ところが、2010年代に入ってから、大学に新しい動きが見られるようになります。それは「多様性の尊重」という観点からの批判です。法政大学、東京大学、国際基督教大学がその代表格と言えるでしょう。

法政大学は「大学として」ミスコンを認めないという声明を発表しました。東京大学では「東大ミス&ミスターコンテストを考える会」(後に東大に限らず賛同者が集う「ミス&ミスターコンテストを考える会」に名称変更した)が

批判運動とSNSによる言論活動をしています。

国際基督教大学の反対運動は他の大学とはやや事情が違います。同大学では、入学式において全員が「世界人権宣言」の原則に立って学生生活を送ることを誓うという伝統があり、多様性の尊重という観点からミスコンを実施してこなかったのですが、2011年にミスコン開催の企画が出たことに対して反対運動があり、開催を阻止したのです

これらの大学の動向は他の大学にも広がりつつあるようです。90年代以降、ミスコン批判は下火になっていましたが、2010年代以降、新たに批判の動きが高まっているのが現状です。

## 2. ミスコン批判の論点は大きく分けると2つ

ミスコン批判の主な論点は、「女性差別だからよくない」と「多様性(ダ



イバースティ）を尊重しないからよくない」の2つです。この2つはまったく異なる論点なのでしょう。私はそうではないと思います。私が社会学部で担当している「性と人権」においては、「女らしさ／男らしさ」の決めつけ押しつけを見直すワークシヨップ及び解説レクチャーを踏まえて、「そもそも性別が2つということも人為的な決めつけだったのでは」と問いかけることにしています。自然界を見れば、単性生殖する生き物や、性転換する生き物や、孵化する時の水温で雌雄が決まる魚など、雌雄どちらかの性別が遺伝的に決定されているとは言えない生き物があります。したがって「性別は雌雄の2つである」というのは自然界の掟ではありません。それなのになぜ人類は長い間、性別二元論を当然のこととしてきたのでしょうか。人為的に作られた決めつけを長期間に渡って社会全体で信じてきたという現象を、私は社会的洗脳と呼びたいと思います。

LGBTという言い方が現在、広まっていますが、多様な性はレズビアン、ゲイ、バイセクシユアル、トランスジェンダーの4つにきれいに分類されるわけではないことから、クエスチョニングのQを加えてLGBTQという言葉の方が使われるようになってきました。しかし、私はこの言い方もまた分類の発想を招く恐れがあると思います。

性自認（ジェンダー・アイデンティティ、略してGI）について考えてみましょう。赤ちゃんが生まれると、多くの場合、外性器の目視で性別が判定されます。そして、「男の子は男らしく」「女の子は女らしく」育てられることが（私の子ども時代よりは緩やかになったとはいえ）今でも多いのです。衣服の色合いやおもちゃの選び方を通じて、「男の子は泣かないの」「女の子なんだからお行儀よくしなさい」などのしつけ方を通じて、さらにはテレビ番組やCMで発信される「らしさ」を通じて、多くの人は性別に合致した性自認を作

っていきます。でも、このプロセスにおいて違和感を覚える人もいるのです。そして、その違和感の内容や程度は人によって異なります。野球のような男の子の遊びが大好きでいつも男の子とばかり遊んでいるけれど、だからといって男の子になりたいわけではないという人もいます。スーツを着てネクタイを締めるのがどうしても嫌だ、服装を自由にさせてくれたら働きやすいのに。という人もいます。また、性別違和というよりも、そもそも「女性／男性」という2つの枠そのものを受け付けられない人たち（Xジェンダーやノンバイナリー）という人たちもいるのです。性的指向（セクシユアル・オリエンテーション、略してSO）に関しても、異性愛でなければ同性愛または両性愛というような単純なものではありません。他者に性的欲求を抱かないア・セクシユアルや他者に恋愛感情を抱かないア・ロマンティックの人たちもいます。

そもそも、「男の子は男らしく」「女の子は女らしく」という性別役割や性別イメージの規範には、「性別は2つ（性別二元論）」「異性愛がふつう（異性愛主義）」という思い込みが組み込まれています。SOGI（ソギ、またはソジ）つまり性的指向と性自認に関して、ものすごく狭いところしか認めていません。シス・ジェンダー（身体的性別と性自認が合致している人）で異性愛の人たちが数において多いとはいえ、そうではない人たちの割合は、電通「LGBTQ+調査2020」によれば2018年調査と変わらず89%だったといえます。人間の在り方としてSOGIは多様でありグラデーションをなしていることを理解し、SOGIに関する差別や排除は人権侵害なのだという認識を社会の当たり前にしたいものです。

「女性差別」＝「女らしくあれ」が「SOGIの多様性の否定」ということとつながっていることを説明しました。

もう一つ、強調しておきたいことがあります。性差別というと女性差別ばかりが取り上げられますが、男性に対しては「男は一家の大黒柱であるべき」というプレッシャーがかかっている、これが男性たちを苦しめているということです。女性たちに女らしさを期待する社会は、男性たちに男らしさ、とりわけ「大黒柱」を要求する社会でもあります。大卒者賃金が低下しつつある日本社会において、家計を担う重荷を男性だけに負わせるのは男性差別と言ってよいのではないでしょうか<sup>(1)</sup>

### 3. ミスコンへの賛成意見、 反対意見

ここまでの説明で、「女性差別だからよくない」という論点と「多様性を尊重しないからよくない」という論点がつながっていることをご理解いただけたと思います。ここではSOGIの多様性だけを取り上げましたが「多様

性の尊重」という論点には障害の有無や国籍や年齢など様々な多様性が含意されています。

では、具体的にどのような議論がなされてきたのでしょうか。これまでに表明されてきた賛成意見、反対意見を整理してみます<sup>(2)</sup>。

①ミスコンは画一的な美の基準で女性を順位付けているのか？

・賛成派の意見

ミスコンの出場者は画一的な美しさを目指しているわけではなく、それぞれの得意分野を自分らしく追及している。審査する側も、容姿の美しさだけで審査しているわけではない。

・反対派の意見

歴代ファイナリストたちを見たとき、一定の「女性はこうあるべき」という規範を反映している。仮に出場者たちが「多様な美しさ」を表現しているとしたら、多様性に順位付けすること自体、ナンセンスである。

②そもそもミスコンは本当に女性差別なのか？

・賛成派の意見

ミスコンを支持する女性がたくさんいる。日常において女性たちが互いに容姿を評価し合うことはある。女性の容姿の評価をミスコンとして行うことがなぜ女性差別になるのか。

・反対派の意見

容姿やふるまい方を評価されるのは、圧倒的に女性たちであり、しかも評価の視線は男性的なものであるから、女性たちに支持されていてもミスコンは女性差別的なイベントである。

③ミスコンはルッキズム（外見主義）という意味においても問題なのか？

・賛成派の意見

容姿だけでなく他の評価項目も設けている。ルッキズムに偏っているわけではない。

・反対派の意見

単に外見で評価していることを批判

しているのではない。外見を評価する際に「女性はこうあるべき」という画一的な基準を採用しているところを批判している。

④「ミス」という表現は性別二元論を含意しているか？

・賛成派の意見

ほとんどの学生が未婚なので問題ない。ミスターコンテストも行っているので男女平等である。

・反対派の意見

「ミス」という表現は女性を未婚と既婚に分けて、評価の対象とすべきは未婚の女性であるという考え方、及び、評価するのは男性であるという考え方と切り離せない。だから「ミス」という表現をしている限り、性別二元論という社会的洗脳を追認、強化することになる。

⑤ミスコンが嫌な人は見なければいい？

・賛成派の意見

出場者は自分の意志でエントリーしている。また、運営についても、やりたい学生が自主的に行っている。誰にも迷惑はかけていない。楽しみたい人たちだけでやっているのに、なぜ批判されなければならないのか。

・反対派の意見

ミスコンは「ミス●●大学」（●その大学で一番美しい女子学生）を選ぶイベントであるから、その大学のすべての女子学生が評価対象となっている。大学名を冠する限り、その大学のすべての学生が当事者である。

⑥ファイナリストにとってミスコンは他では得られない貴重な経験である。このことは、認めるべきでは？

・賛成派の意見

ファイナリストたちはミスコンにおける経験を苦痛に思っていない。自分の意志でがんばる人たちを誰も否定できないはず。

## ・反対派の意見

たしかにファイナリストたちはより美しく、より輝くために努力している。でも、ミスコンに参加するとき、自分が評価される「美の基準」によって多くの女性が踏みつけられていることも事実である。そもそも、なぜ「美しい」と評価されることで自信を持てるのだろうか。ここには「女性は容姿で評価されるのが当たり前」という社会的洗脳の影響があるのではないか。

ほかにもたくさん議論が交わされてきましたが、これくらいにとどめます。

## おわりに

「はじめに」のところでも述べましたが、私はミスコンについて、良いとか悪いとか価値判断するつもりはありません。「性と人権」という授業でグループ討論を行う際、誰もが安心して

語り合えるように、私は3つのルールを設けています。それは、「どんな意見も尊重する」、「ここでの話を口外しない」、「考えを変えてもいい」というものです。そして、私自身、学生たちのどんな意見も尊重するように心がけています。どんな意見を言っても、否定されたり非難されたりしない。「なるほど、そうなんだ」と聞いてもらえる。そういう環境を作ることが教師の務めだと思っています。

いかがでしょうか？ミスコンについて語ってみませんか？おしゃべりの中で、ゼミの討論において、友だち同士、あるいは教員も交えて、まずは語ってください。賛成派と反対派の対立は険しいものかもしれませんが、まずは互いの思いを聞き合うことから始めましょう。どんな意見にも耳を傾ける柔軟な姿勢こそ、龍谷大学の学風ではないでしょうか。言論こそ大学の場にふさわしいと私は信じています。一緒に考えて行きましょう。

## 【注】

(1)『連合・賃金レポート2020（サマリー版）』p2には1997年から2019年までの22年間の賃金推移について、「生活者視点に立つのなら、ほとんどのライフステージの賃金が低下している」とある。

(2)「ミス&ミスターコンテストを考える会」のサイトに掲載されている「疑問に対する答え」を基にまとめました。

## 【参考ウェブサイト】

・山本（山口）典子、2017年「ミス・コンテストに象徴される女性への人権侵害―堺市女性団体協議会のミスコン反対運動から―」『日本大学大学院総合社会情報研究科紀要』No.18, 181-191

chrome-extension://efaidnbmninhpcajpegclefnmhkaj/viewer.html?pdfurl=https%3A%2F%2Fgssc.didnition-u.ac.jp%2Fwp-content%2Fuploads%2Fjournal%2Fpdf18%2F18-

181-191-Yamamoto.

pdf&clen=90437&chunk=true

(閲覧日2022年2月18日)

・田中ひかる、2020年8月13日

「大学ミスコン『廃止』か『内面重視』か、ミスコン『衰退の歴史』から考

える」、現代ビジネスオンライン、2020年8月13日

<https://gendaiimedia.jp/articles-/74788> (閲覧日2022年2月18日)

・小林哲夫、2019年4月4日「ミスコンに法政大が『ノー』。ゴタゴタ続く慶応義塾大は…」(AERAdot、2019年4月4日)

<https://dot.asahi.com/dot/2019120300063.html?page=1>

(閲覧日2022年2月18日)

・『連合・賃金レポート2020〈サマリー版〉』

<chrome-extension://efaidhbmnnni>

[bpcaipcgiclfndmkaj/viewer.html?pdfurl=https%3A%2F%2Fwww.jtuc-rengo.or.jp%2Factivity%2Froudou%2Fshuntou%2F2021%2Fwage\\_report%2Fwage\\_report\\_summary.pdf%3F30&clen=485688&chunk=true](bpcaipcgiclfndmkaj/viewer.html?pdfurl=https%3A%2F%2Fwww.jtuc-rengo.or.jp%2Factivity%2Froudou%2Fshuntou%2F2021%2Fwage_report%2Fwage_report_summary.pdf%3F30&clen=485688&chunk=true)

(閲覧日2022年2月18日)

・法政大学、2019年11月29日「『ミス／ミスターコンテスト』について」

<https://www.hosei.ac.jp/NEWS/gaiyo/191129/?auth=9abb458a78210eb174f4bdd385bcf54>

(閲覧日2022年2月18日)

・「ミス&ミスターコンテストを考えよう」

<https://thinkaboutmissmistercon.amebaownd.com/>

(閲覧日2022年2月18日)

・「ICUのミスコン企画に反対する会」

<https://sites.google.com/site/missconhantaicu/>

(閲覧日2022年2月18日)

・「国際基督教大学（ICU）におけるミスコン開催に反対する共同声明」  
<https://sites.google.com/site/missconhantaicu/jointstatementjp>  
(閲覧日2022年2月18日)



## 全国水平社宣言100周年

日本で最初の人権宣言と言われる全国水平社宣言から今年（2022年）で100年となります。「全国に散在する吾が特殊部落民よ団結せよ」と呼びかけ、差別を受けている人たちが立ち上がったのです。私たちはあらためて水平社宣言の意義を問い、差別や人権侵害を自分のこととして考える機会にしたいものです。

## 部落問題・同和問題

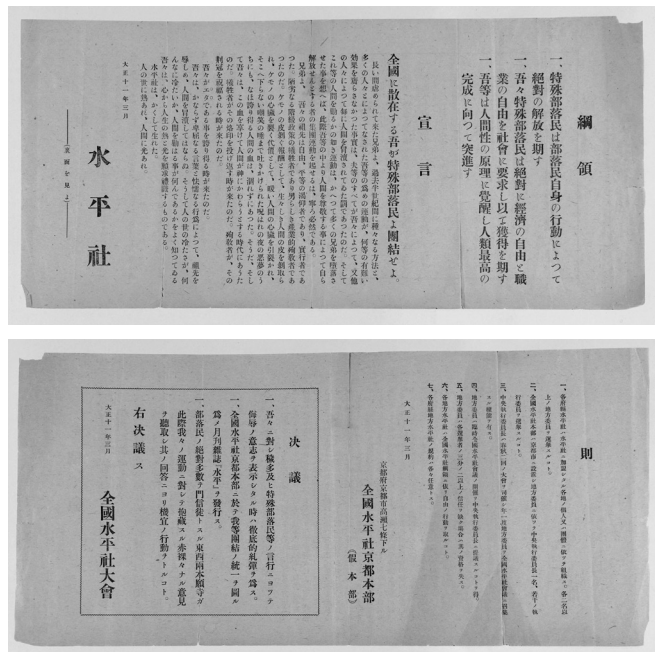
### とは何か？（人権パンフレット「共是凡夫」より転載）

龍谷大学経営学部准教授

つまきしんご  
妻木進吾

2016年12月、「部落差別の解消の推進に関する法律」が成立し、施行された。これは、「現在もなお部落差別が存在する」との認識のもと、「部落差別の解消を推進し、もって部落差別のない社会を実現すること」を目指す法律である。部落差別は、昔に終わった話ではなさそうである。

近世の日本社会では身分秩序の最下層に「えた」と蔑称される賤民身分が置かれた。1871年、明治新政府が賤民の



写真提供＝中山和弘さん

身分・職業を平民同様とする「解放令」を布告するが、形式的なものとどまり、かつて賤民身分だった人々と、後に被差別部落や同和地区と呼ばれるその居住地に対する差別（部落差別）は、解放令以降も厳しく存在し、人々の暮らしはかつて苦しくなりさえした。1922年には、被差別の当事

者が部落差別の撤廃を求め、全国水平社を結成する。京都で開催された設立大会で読み上げられた、「人の世に熱あれ、人間に光あれ」で終わる宣言は、日本最初の人権宣言と呼ばれる。これらは、中学・高校の歴史の授業で習ったことがあるという人も多いだろう。

その後も部落差別は根強く残り、厳しい暮らしも続いた。部落出身であることを理由に安定就業から排除される。その結果、貧困から抜け出せず、子どもの学歴達成は低位なままとなる。不利が不利を呼ぶ連鎖に部落差別がドライヴをかけ、他方で貧困や低学歴などの地域的集積は差別の根拠とされる。こうした差別や不平等、それらが相互に原因・結果として結びついた諸現実とは、部落問題・同和問題と呼ばれる。

やがて、被差別部落の劣悪な生活実態そのものが差別であるという論理により行政責任を追及する部落解放運動の高揚と、それを受けて本格化した同和対策事業によって地域の姿は変貌する。

1969年の同和対策事業特別措置法以降33年間、住環境の改善などの特別対策事業が行われた結果、たとえば関西の都市部の部落では、老朽木造密集住宅街から中高層の公営住宅が多くを占める地域へと、その風景は一変した。日本全体の経済成長もあり、低学歴や不安定就業、貧困など、部落外との格差は残りつつも概ね縮小していった。しかし、近年、日本社会全体の不安定化傾向に加え、同和対策の特別事業が

2002年に終結した影響もあり、被差別部落の生活実態は再び不安定化・貧困化しつつあるとの指摘もある。なお、2010年に大阪市内のある被差別部落で実施された訪問面接調査は、こうした近年の実態を知る上で重要な調査のひとつであるが、この調査には龍谷大学の学生十数人も参加しており、彼／彼女らは一軒一軒の住宅を訪問し、住民から生活実態を聞き取っている。

では、差別についてはどうだろうか。部落解放運動や同和行政の粘り強い取り組みもあり、部落差別はかつてに比べればずいぶんマシになった。しかし、冒頭の法が指摘しているように、なくなっていない。事件化されることは少ないとはいえ、部落出身であることを理由として結婚に反対される結婚差別はそれほど珍しいものではない。2011年に発覚した、身元調査を主な目的として東京の法務事務所が全国3万件の戸籍謄本等を不正取得した事件は、部落出身者を忌避する人々が存在していればこそその事件である。また、大阪府民対象の意識調査（2010年）では、「結婚相手が同和地区出身者かどうか気になる」割合が2割に達することが明らかにされている。2016年には、インターネット上に同和地区の地名リストが公開される問題なども起こった。被差別部落の出身というアイデンティティが、その人を構成するアイデンティティの一つとして当たり前に受け止められる社会を作り上げていくという課題は、まだ私たちに残されている。

## 人権に関する基本方針

龍谷大学は、建学の精神である浄土真宗の精神を具現化する取り組みのもと、平和を希求し、基本的人権と生命の尊厳を守り、人種、民族、国籍、ルーツ、宗教、信条、社会的立場、年齢、性別、セクシュアリティ、障がいの有無などにかかわらず、本学に関わるすべての人が差別やハラスメントなどの人権侵害を受けることなく学び、働き、関わり合えることを保障します。

龍谷大学は、基本的人権を尊重した環境の整備と、社会的に不利な立場にある人への支援・連帯を推進するため、人権理論の研究、社会的な変化や新たな人権問題に関し、情報収集に努め、本学における人権保障にかかる諸施策の検証と改善、教職員への研修、学生への教育・啓発を継続的に実施します。また、人権保障のための体制の整備に努め、取り組みを公表します。

龍谷大学のすべての構成員は、人権侵害が意図的な行為だけでなく無知や無関心、想像力の欠如によって生じることを常に意識するよう努めます。そして、自ら差別に加担し他者を傷つけている可能性があることの自覚をもち、人権問題に真摯に取り組む姿勢を持つとともに、一人ひとりの多様性と価値を尊重し、偏見や固定観念、差別意識の克服に向けて、主体的に取り組めます。

龍谷大学および龍谷大学のすべての構成員は、教育、研究など、

あらゆる機会において人権保障にかかる諸課題を明らかにし、諸活動や成果の発信を通して、人権を尊重する文化と差別のない社会づくりに貢献します。

## 性のあり方の多様性に関する基本指針

性的指向や性自認など、性のあり方は多様であり、これらに関する差別や偏見を解消し誰もが自分らしく安心して過ごすことができる大学や社会を目指すことは、すべての本学構成員が取り組むべき課題です。

龍谷大学は、「人権に関する基本方針」のもと、本学構成員の一人ひとりが、性的指向および性自認などに関する悩みや生きづらさを抱える人がいることを常に理解し、合理的な配慮を可能な限り提供するため、次のとおり基本指針を策定します。

1. 教育、学修、研究、就業等の環境において、性のあり方に関する偏見や差別が生じることがないよう不断の学習と啓発に努めます。
2. 具体的な対応にあたっては、悩みや生きづらさを抱える本人の意思を尊重して合意形成を目指します。
3. トイレや更衣室等の利用にあたり、戸籍上の性別等にかかわらず性自認にしたがって自らが選択できるよう、環境整備と理解の醸成を図ります。
4. 性のあり方に関する個人情報保護を徹底します。



## 「白色白光」

「白色白光」しろくしろくという言葉は『仏説阿弥  
陀經』に「池中蓮華 大如車輪 青光  
青光 黄色黄光 赤色赤光 白色白光  
微妙香潔」とあり、本紙の表題にふ  
さわしいということで命名しました。  
これを口語訳しますと、次のよう  
になります。

池の中に咲く蓮の花は、車輪の如く  
大きい。例えば青い色の花は、青く光  
り輝いており、黄色い花は黄色く光つ  
ている。赤い色の花は、赤く輝いて咲き  
匂い、白い色の花は、真っ白に輝いて咲  
いている。その各々の花は、微妙であり、  
妙なる色合いであり、その香りたるや、  
芳しく清らかである。

世の中には、青い色の花として輝く  
人もあるでしょうし、あるいは白い色  
で輝く人もあるでしょう。このように、  
私たち一人一人は、それぞれの母の胎  
内から生まれ、尊い生命を恵まれた、  
かけがえない存在なのです。

「白色白光」には、お互いがお互いを  
尊重しあいながら、自分だけにしか出  
せない美しい輝きでもって咲き匂って  
欲しいという願いが込められています。

---

### 「白色白光」第24号

---

2022年3月10日発行

---

編集 龍谷大学人権問題研究委員会

発行 龍谷大学

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67

☎075(642)1111(代)

---

